



### 毎年大きな被害が

洪水による昔の被害規模はどんなものだったんでしょう。田中幹人さん宅（上下諏訪木）に残っている、慶応元年（一八六五）の文書によると……。

- 一、一万五千両（七千石損失分）
- 一、二万両（救援米など）
- 一、五千両（たねもみなど貸し付け返済不可分）
- 一、一万両（堤防補修分）
- 一、十五万両（家屋被害分）

合計 二十万両

これは、この一か年の水害による被害推定総額。このような膨大な被害が毎年のようにくり返されていると書かれてあり、この数字が、大津分水建設の原動力の一つとなりました。

ちなみに二十万両という大金は今日のお金にすると四十億円くらいになると思われます。



### 水はけが早くなりました

#### 西用改修のおかげ



関川ヨリさん  
(主婦・旭町)

裏の方の人たちのところは、床下に少し水がはいったようですが私のところは、これといった被害はありませんでした。ようやく西用水路の改修効果が出てきたようで、水はけが早くな

りましたね。前でしたら、これだけの降雨量だったら相当の被害が出ていたと思います。玄関先を一段高くしたり、ポンプをつけてもらったりして防壁御してきていたんですが、かんじんの西用水路の水があふれてはどうしようもないですから……最近まで、壁に浸水したとき

### 鴻や沼を埋めたてる

このように先人たちは、水とのたたかいに明け暮れていたわけでおよそ三百年の藩政の中で大きな治水事業は、太閤沼、白蓮沼、

風瀉、北瀉などの鴻や沼の埋めたて。さらには笠巻川の入・出口をふさいで田畑とし、三条地震（文政十一年）で隆起したといわれる古信濃川（福田川）も開墾して、白根郷は、ほぼ現在のような地形になったといわれています。

### 災害は忘れたころに いかそうこの教訓を！

「歴史はくり返される」「災害は忘れたころにやってくる」と、よくいわれます。

今回の六・二六豪雨も、私たちにいろいろな教訓を残して過ぎ去りました。

清水、茨管根樋管からは、白い牙をむいた濁流が容赦なく流れ込み、田畑や家屋に大きな被害をも

たらしました。

農地の区画整備などが進むにつれ、しだいにつぶされ、現在、そのなごりをとどめるのは、数か所だけで、うっかりすると忘れかけていた樋管なのですが……。

今後は、これらの点検と整備改修が早急に望まれ、大きな課題となりそうです。

### 幼年の思い出

相馬 泰三

そとはげしい雨の響、ホラ貝の音、そして、早鐘の音、おおあめの時の恐ろしい早打ちの鐘の音、

「子どもたちをよく、数をかぞえて、いいか」「早くく」。きれぎれに、こうした叫びが耳に入ってきた――

今、思い出してさえ胸が押しつぶされるような気持になる。「早く逃げ出すんだ」「昼でも夜具でも、何でも構うことはない。みんな持ち出して水門の穴へ投げこむんだ」。

「相馬泰三」作家。明治十八年に鑄物師興野の医師の二男として生まれ、本名を退蔵という。早稲田大学英文科を中退し創作活動に入る。おもな作品には「夢と六月」「憧憬」などがあり、昭和二十七年になくなった。

### ひとこと

#### 水害去って

#### 副堤をつくるなら耕作地を生かす方法で

二十世紀は助かったが、新水、辛水はダメだね。七〇%以上の被害。地区の中では全滅の農家も多いよ。

まあ、河川敷に耕作している以上はこれも宿命。これを機会に副堤の建設が早められると思う。ただ、現在、いわれているように耕作地につくられるとなると絶対反対しなければならぬ。川端につくるとなれば別だが……。



遠藤秀夫さん  
(農業・中大郷)

#### へびの生殺し みたい……



牛腸庄一さん  
(会社員・庄瀬)

十年間に三回。家はいたむしおおせいの人に迷惑をかけるし……。五年前に改築したいと、河川事務所へいったら「近く副堤をつくるので」と許可されなかった。その後、副堤についてはサツパリ。いったいどうなっているのか腹が立つ。いつつくるのかハッキリしてもらいたい。自分の土地であつてもできないなんて、へびの生殺しみたいなの……。

#### 樋管は部落に とって大切なもの



小林三治さん  
(農業・清水)

まさか樋管が破られるとは思っていませんでした。これは、果樹関係と非常用水にはかせないもので、つぶされては困る。そのためにも先日も、土地改良区へ陳情に行った。今回の被害は、扉が古くなっていたために生じたもので新しいものにすれば、十分に耐えることができると思う。新飯田用水機場から水を送るといっても、時間的に無理なので

#### よく話し合って 治水対策を



川村隆作さん  
(消防団長・東笠巻)

消防団員に感謝している。今までもこうしたことが何回もあつたわけで、それらの体験が生かされている。ただ、今回もそうだったが、危険になる所はいつも同じ。このへの対策が、今後、必要だと思つた行政と住民がよく話し合つて納得する方法で、治水対策を進めたい。

## たしかかな足どり下水路整備

### 本年度は約400mを改修



▲今年度はこの附近まで改修されます

雨による家屋の浸水被害を防ごうと、昭和45年から工事が進められている都市下水路整備事業も、たしかかな足どりで延びてきています。

今回の6・26梅雨前線豪雨で、ようやくその効果も出、これまで浸水に悩んでいた西用水路沿いの人たちから喜ばれています。

本年度は、さらに1億5,000万円の事業費で、約400mの改修工事を8月から予定しています。

場所は須藤小路から白根小のプール付近まで。現在の水路を少し東寄りに改修し、幅3.2mのものを設けます。残った部分は埋めて、道路として活用する考えです。